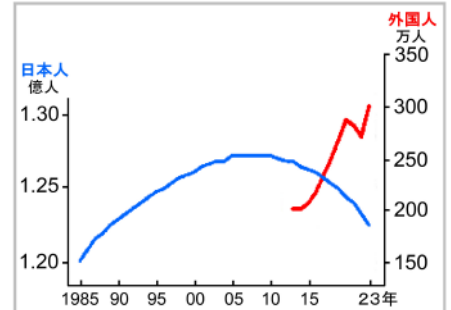


Dr. 板東のメディカルリサーチ No. 212

〈各国の 気質理解し 協調へ〉

2023年7月下旬、総務省から人口動態調査の結果が発表された。日本の人口は1.22億人、前年比80万減は過去最大で、初めて全都道府県で減少に。一方、外国人は全都道府県で増加し、299万人が底支えしている。生産年齢人口はわずかに増えたが6割に満たない。日本の経済・社会が成長していくためには、能力を有する外国人との共生が必要となる。

国際協力機構（JICA）は、国が目指す状況を2040年に達成するため外国人労働者が674万人必要と試算。人口問題研究所は2067年に外国人が10.2%になると。つまり、都市でも地方でも外国人が社会に浸透し、役割を担う時代が近い。

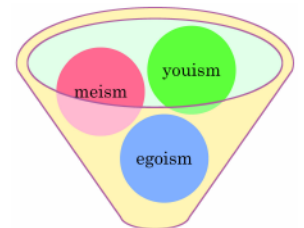
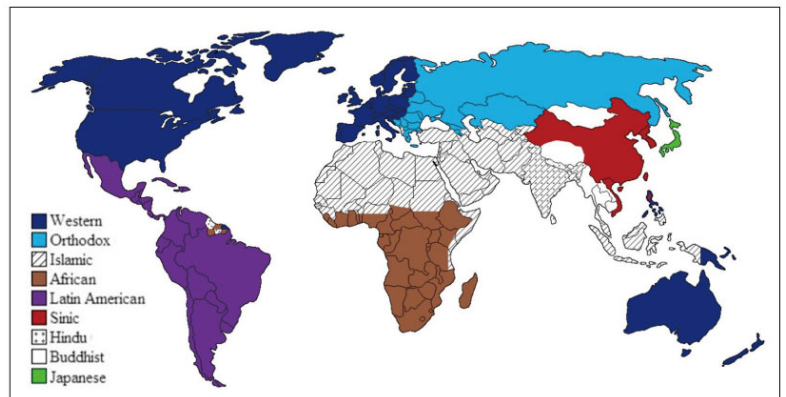


◆外国語 分かって気づく 日本語が

日本と外国との対比は意義深い。世界を見渡したとき、文明は9つの範疇に分かれるという。その基盤には各宗教がみられ、唯一日本は一国だけで文化圏を形成する。

外国へ行って初めて日本の本質や日本人の気質を認識できる。文豪の夏目漱石や森鷗外も外国語が極めて堪能だ。ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロ氏は英国籍の日本人である。

両国の言語や国民性、感性を有するからこそ成しえた業績だろう。私事で恐縮だが、医師・医学者として和文や英文を執筆する機会を数多く得たことで、少し分かってきたような気がする。



◆ミーイズム 社会の中の ユーイズム

日本vs世界、現在vs過去で比較したい。日本古来の社会的価値観と異なり、個人主義や自己中心などの方向に変化してきた。諸外国からみると日本の文化や日本人はexcellentでfantastic、unbelievableと高く評価。周囲への気配り、目配り、心配りができ善意に溢れる国民性は稀有である。

「ミーイズム(meism)」とは自分の関心や興味が最優先で、他人やほかの事柄、社会的変化には関心を払わない「自己中心主義」のこと。読者には思い当たることもあるだろう。類似する「エゴイズム(egoism)」とは自分の利益が最優先で、他人の状況は考えない「利己主義」を意味する。生物には子孫を残すため「利己遺伝子」が存在するが、人間社会でこの機能が働くのはいかがなものかと思う。

一方、meismの対義語は「ユーイズム(youism)」で、相手の立場で考えること。心身医学なら「もし私があなただったら」となる。日本の高齢者はおおむねyouismなのはご存じの通り。職場の上司や同僚、部下にはmeismやyouism気質の人がいて、一緒に仕事をすると、youismの人は我慢をするか、離れるしか選択肢がないという意見も聞く。推奨されるのは、御仏の心を表す「利他主義」だろうか。

現代は自由が基盤。フランス革命から現在に繋がるフランス共和国の標語「自由、平等、友愛(Liberté, Égalité, Fraternité)」が知られる。福沢諭吉らが和訳する際に、当時我が国には友愛(brotherhood, fraternity)という概念はなく、身分制度に拮抗しない博愛(philanthropy, charity)が選ばれた。

今後懸念されるのは、様々な因子が関わり共生とならざるを得ないこと、日本が有する優れた魅力が次第に失われていくことかもしれない。我々はどう考え、どのようなスタンスで生きていくべきだろうか。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)